

国際関係学部 国際関係学科 専門教育分野 TLO: Target and Learning Outcomes

授業科目区分	授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	科目種別 講義 演習 実習 PBL など	単位	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. ディプロマポリシー						
						授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を担いとするか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指す、何を到達目標とするか。	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
								多角的な視野からの幅広い知識と教養を身につけている	国際関係分野の専門知識とその応用に必要なコミュニケーション力を身につけている	国際社会の多様な価値観や文化を理解し、自立かつ協働して諸問題に取り組むことができる	国際社会における問題の理解と解決に必要な情報やデータを収集・分析し、論理的で多角的かつ批判的な思考をもとにして問題の解決に取り組むことができる	市民として社会に対して関心をもち、グローバルな視点から国際関係の幅広い知識や経験を活かして社会に貢献することができる		
必修	国際関係学入門	M-IRE101	100	講義	2	国際関係学の全体像を提示し、2年次以降の専門科目履修に際しての学修計画の指針を提供する。	諸国際問題について、基礎的な理解ができ、全体像を把握できるようになる。	◎		○			○	
卒業研究・演習	基礎演習	M-SEM201	200	演習	2	国際問題に対する多様なアプローチを知ることで、国際関係という学びの分野の全体像を把握させる。	国際問題について基礎的な理解をする。次年度以降の専門学修を計画立案する指針を作る。	○	○	◎				
	専門演習	M-SEM301	300	演習	2	学部の専門分野から選択し、その研究に必要な基礎知識と実践方法を少人数クラスで徹底して学ぶ。	専門研究の必修スキルである読解・調査・発表・討論等の能力を身につけ、さらなる学修の準備をする。			○	◎		○	
	卒業研究	M-SEM401	400	PBL	4	基礎演習での学修を踏まえ、さらに各専門分野についての知見と実践を深める。	高度な専門性を有する分野について、研究発表や論文執筆などの実践的な能力を身につける。	○		○	◎			
	戦争と平和	M-POL209	200	講義	4	国家の形成過程と科学技術の発展の中で、戦争という現象がどのような変化を遂げてきたのかを歴史的に理解した上で、戦争の頻度や深刻度に影響を与えてきた要因と、戦争を防止し抑制するための方策を検討する。	古代から現代にいたる戦争の歴史と特徴を様々な角度から体系的に理解し、平和を実現するための方法と課題を考える力を養う。	◎			○		○	
	国際政治学	M-POL201	200	講義	4	「国際社会の紛争と協調」について、基本的な捉え方、歴史的な背景、今日の諸課題をとりあげて、国際政治の知見を深める。	(1) 国際政治の多様な考え方を理解し、それらを組み合わせた分析をできるようになる。(2) 地域の諸問題を国際的な視野の中で捉え、両者の相互作用を説明できるようになる。(3) さまざまな社会現象を多角的に考察し、バランスのとれた提言をできるようにする。		◎	○	○		○	
	国際経済学	M-ECN210	200	講義	4	現代の複雑な国際経済の構造について理解し、国際経済に関する重要記事を読みこなすことができるようになるための学修を行う。	国際貿易論、国際金融論の基本的な内容について理解し、さまざまな国際経済問題について貿易、国際金融の両面から、理論的ツールを用いて考察することができる。			○		◎	○	
	国際法	M-LAW201	200	講義	4	(1)国際法の全体像をつかみ、(2)国際社会で起こっていることについて法的側面から考え、(3)各自の学習テーマ(授業初回時に各自で設定する)について主体的に学ぶ。	国際法を学ぶことによって、(1)~(3)の目的に挙げた課題について各自でまとめ、多面的に社会をとらえる視点を身につける。	○		◎			○	
	現代外交論	M-POL207	200	講義	4	現代社会の国際化や多極化といった状況を外交という側面から理解するために、国家の対外政策や国家間の外交交渉などについて、理論と実際の両側面から分析する。	現代外交の理解を通じて、(1) 外交の基本的な考え方を理解し、現実の外交を批判的に分析をできるようにする。(2) 地域の諸問題を国際的な視野の中で捉え、両者の相互作用を説明できるようになる。(3) さまざまな社会現象を多角的に考察し、バランスのとれた提言をできるようにする。			◎	○	○	○	
① 戦争と平和	政治思想	M-POL211	200	講義	4	政治学における基礎概念の思想的背景を提示することで、3年次以降の専門科目の履修に際して、諸論点をより根源的に理解するための思考力を提供する。	現代世界における諸々の政治問題に関して、先入見を排した独自の思考ができるようになり、自身の見解を明確に言語化することができるようになる。	◎		○			○	
	国際政治史	M-POL212	200	講義	4	17世紀に誕生した新しい国際体系がさまざまな歴史的事象を通じて全世界に拡大されていく過程について学ぶとともに、第二次世界大戦後に国際社会の構造変化が生じたことに焦点をあてて、戦後に米ソ間で冷戦といわれる状況が生まれ、世界は東西陣営と呼ばれる二極体制に移行し国際社会にさまざまな影響を及ぼしていく過程を理解する。	それぞれの時代の歴史的な出来事についてその背景や影響などについて学び、現代国際社会との関連性について理解する。国際社会の構造変化を歴史的流れの中で捉え、現代社会の思想的背景となっている宗教やナショナリズム、自由主義、民主主義そして資本主義や社会主義などのイデオロギーや思想について理解することが出来る。	◎		○			○	
	民主化の比較政治	M-POL213	200	講義	4	諸外国の政治体制や政治変動を分析するための基本的概念と理論的枠組みを学習し、民主化という体制変動の法則性や分析方法、及び原因を明らかにする。	比較や類型化という分析の手法を習得し、民主化のような政治変動を理解する能力を養う。併せて、東アジア諸国の政治の実態を知り、各国の抱える課題を理解する。	◎			○		○	
	比較文化論	M-POL214	200	講義	4	日本の諸宗教における神と仏のイメージとイスラム教におけるアッラーのイメージとの比較をもちに、日・イスラム両文化の共通点や相違点について理解する。	(1)異なる宗教を比較することによって宗教についての理解を深める。(2)宗教を通じて地域文化の形成や特徴を理解できる。(3)宗教の相違による文化の相違や共通点について理解できる。	○		◎			○	
	ナショナリズム論	M-POL304	300	講義	4	ナショナリズムについての理論的アプローチに触れ、ナショナリズムのもつ役割について、歴史的、理論的、事例別に検討する。	近現代においてナショナリズムが果たした役割を理解できるようになる。あわせて、自助努力を基本とした自身の頑張りや規範的市民になれるよう、健全なナショナリズム理解をもてるようになる。	◎	○	○				
	軍縮安全保障論	M-POL301	300	講義	4	日本への原爆投下を起点に核兵器の拡散および軍縮交渉の歴史の経緯を辿りながら、「核なき世界」に向けた軍縮と不拡散の方策と課題を探り、併せて広島、長崎の今日的意味を深く考えながら被爆国日本の役割を考えることを目的とする。	軍縮・不拡散問題がどのように変化してきたのか理解し大筋を説明できること、NPT、CTBT等の軍縮・不拡散の枠組みの現状と課題を理解し説明できること、軍縮・不拡散問題に対する日本の役割について自己の見解をもてるようになることを目標とする。	○		◎				
	国際金融論	M-ECN316	300	講義	4	グローバル化の中の金融現象に関わる理論および現実を理解し、国際関係学の学修を広げた経済学的視点からサポートする。	(1)グローバルな金融現象の理解する。(2)為替レート決定を中心とした国際金融の基礎を学ぶ。(3)国際財務活動の内容と金融派生商品の基礎的理論を理解する。(4)グローバルな金融危機現象を把握するために、金融リスクと金融テクニクの内容を理解する。(5)国際金融現象の背景としての国際政治経済システムを理解する。(6)マクロ経済学と関連した金融理論・金融政策を理解する。	○	○		◎			
	比較憲法論	M-LAW309	300	講義	4	日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツの憲法を比較しながら、それぞれの類似点・相違点について、その理由とともに理解を深め、憲法を「自分ごと」として考える。	近代統治制度の特徴である「権力の制限」や「民主主義」の意義について理解できるようにする。類似の制度や現象を比較分析する比較研究の作法を習得できる。			○	◎		○	
		国際ボランティア論	M-IRE205	200	講義	4	発展途上国で現在起きている貧困・環境汚染・格差拡大といった社会問題を理解し、公平で持続可能な社会を作るために、国際機関現地政府、コミュニティ等各アクターと連携しながら、市民社会として果たせる役割について考える。	(1)本授業で取り上げるグローバルな問題について、問題が起きた背景を理解し、持続可能な開発目標(SDGs)と関連付けながら克服の方法を考える。(2)問題解決に向けた市民社会の役割を理解し、現地政府、国際機関、コミュニティなど他のアクターとの役割分担や関係性を理解する。(3)支援対象となる人々や地域の文化・習慣・価値観・社会の在り方などについて多面的に学ぶことの重要性を知る。(4)グローバルな問題とその克服に向けた多様な取り組みに関する情報収集能力が向上する。(5)市民社会の担い手としての自覚を持ち、社会課題を見つけ、解決に向けた行動に結びつけることができる。			○	○		◎

授業科目 区分	授業科目名	科目コード ナンバー	ナンバ リング	科目種別 講義 演習 実習 PBL など	単位	1. 科目の目的		2. 科目の到達目標		3. ディプロマポリシー				
						授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を望むとするか。		授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指すか、何を到達目標とするか。		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
						国際社会で実施されている、様々な援助の形態やプレイヤーについて、学ぶ。あわせて、世界と援助が直面する課題についても、学ぶことを目的としている。	国際社会における問題を理解し、異なる価値観をもつ人々が平和な社会を構築するための国際理解のあり方について、SDGsの「多様性の豊かさ」を基礎に、社会の問題を自分ごととして考える能力と態度を育成する。	市民の一人として、(1)世界の多様な社会や文化の違いについて知り、(2)異文化の他者と共生していくための基本的な視座を理解し、(3)摩擦を乗り越え、平和な多文化共生社会を構築するための、思考力、実践力を養う。	多角的な視野からの幅広い知識と教養を身につけている	国際関係分野の専門知識とその応用に必要なコミュニケーション力を身につけている	国際社会の多様な価値観や文化を理解し、自立かつ協働して諸問題に取り組むことができる	国際社会における問題の理解と解決に必要な情報やデータを取集・分析し、論理的で多角的かつ批判的な思考をもとにして問題の解決に取り組むことができる	市民として社会に対して関心をもち、グローバルな視点から国際関係の幅広い知識や経験を活かして社会に貢献することができる	
② 国際協力 国際関係学 科専門分野	国際援助技術論	M-IRE201	200	講義	4	国際社会で実施されている、様々な援助の形態やプレイヤーについて、学ぶ。あわせて、世界と援助が直面する課題についても、学ぶことを目的としている。	国際社会における問題を理解し、異なる価値観をもつ人々が平和な社会を構築するための国際理解のあり方について、SDGsの「多様性の豊かさ」を基礎に、社会の問題を自分ごととして考える能力と態度を育成する。	市民の一人として、(1)世界の多様な社会や文化の違いについて知り、(2)異文化の他者と共生していくための基本的な視座を理解し、(3)摩擦を乗り越え、平和な多文化共生社会を構築するための、思考力、実践力を養う。	○		○			◎
	国際理解論	M-IRE206	200	講義	4	国際社会で実施されている、様々な援助の形態やプレイヤーについて、学ぶ。あわせて、世界と援助が直面する課題についても、学ぶことを目的としている。	国際社会における問題を理解し、異なる価値観をもつ人々が平和な社会を構築するための国際理解のあり方について、SDGsの「多様性の豊かさ」を基礎に、社会の問題を自分ごととして考える能力と態度を育成する。	市民の一人として、(1)世界の多様な社会や文化の違いについて知り、(2)異文化の他者と共生していくための基本的な視座を理解し、(3)摩擦を乗り越え、平和な多文化共生社会を構築するための、思考力、実践力を養う。			○	◎		○
	国際組織論	M-IRE212	200	講義	4	伝統的な国際組織がいかに機能し、あるいは機能出来なかったか、新たに世界はどう対応してきたのか、日本が具体的にいかに関わっていったかなどを検証する。	自然科学から社会・人文科学までの広い視点から、そして数々の事例によって、現代社会の環境問題とそれに対する対策の現状と課題を理解し、問題解決のための方策を考える。	環境保全について理解を深めるだけでなく、主体的に捉え、それぞれの立場で行動に結びつけていくことを目標とする。	○			◎		○
	国際環境論	M-IRE215	200	講義	4	自然科学から社会・人文科学までの広い視点から、そして数々の事例によって、現代社会の環境問題とそれに対する対策の現状と課題を理解し、問題解決のための方策を考える。	国際社会の諸問題の解決のために、NGOが各セクターと協働する中でどのような役割を果たすのかを理解し、実際の活動に必要な知識とスキルを修得する場を提供すること。	前半(理論編)はNGOの組織特性、マネジメント、問題解決プロセスについて体系的に学ぶ。後半(実践編)は実際の活動に役立つ知識・知恵・スキルを身につけること。	○			◎		○
	国際NGO論	M-IRE213	200	講義	4	国際社会の諸問題の解決のために、NGOが各セクターと協働する中でどのような役割を果たすのかを理解し、実際の活動に必要な知識とスキルを修得する場を提供すること。	ジェンダー概念についての理解を基本として、主として1975年以降の国連や日本政府の男女平等政策、男女共同参画社会の形成を中心に概観し、ジェンダーをめぐる諸課題、特に現代日本の少子化対策に関連して「性と生殖に関する健康と権利」について考察する。さらにフェミニズム(女性解放)や、セクシュアル・マイノリティの主張、運動、性の多様性について理解を深める。	ジェンダーという概念や論点を理解し、具体例をもって説明できる・日本のジェンダー平等とその政策について国際的視点をもって説明できる・性の多様性と日本の状況について説明できる・ジェンダー視点から人権問題、「性と生殖に関する健康と権利」について説明できる・固定的な性別役割意識にとらわれず、自分自身の将来設計を描くことができる。	○			◎		○
	ジェンダー論	M-SOC207	200	講義	4	ジェンダー概念についての理解を基本として、主として1975年以降の国連や日本政府の男女平等政策、男女共同参画社会の形成を中心に概観し、ジェンダーをめぐる諸課題、特に現代日本の少子化対策に関連して「性と生殖に関する健康と権利」について考察する。さらにフェミニズム(女性解放)や、セクシュアル・マイノリティの主張、運動、性の多様性について理解を深める。	先進国および発展途上国ともに、格差の拡大が大きな問題となっており、世界各国の発展の可能性につき、データを確認しつつ考察し、世界の投資、貿易、外交政策の動向を確認する。	世界各国の文化・社会の基盤の差異を知り、各国の制度とその差異を理解し、国際的な制度の組み直しが必要と考え、発展途上の諸国が、今後どのような道をたどるか検討できるようにする。	○			◎		○
	国際開発論	M-IRE202	200	講義	4	先進国および発展途上国ともに、格差の拡大が大きな問題となっており、世界各国の発展の可能性につき、データを確認しつつ考察し、世界の投資、貿易、外交政策の動向を確認する。	統一理論と統合の現実を対比しながら望ましい未来を展望するとともに、国際関係学部の中の国際協力分野の1科目として現代国際政治経済を理解する上での理論的・応用的視点を養う。	(1)ヨーロッパで、戦後、統合の動きが活発化した歴史的背景を理解する。(2)同時多発的に形成された2つの地域共同体を中心として統合の現状を把握する。(3)アジアにおける統合の必要性と可能性を考察。(4)各地域統合の総合によって世界全体の政治・経済構造を把握する。(5)グローバル化による各種統合現象を考察し、理解する。	○		◎		○	
	国際統合論	M-IRE309	300	講義	4	統一理論と統合の現実を対比しながら望ましい未来を展望するとともに、国際関係学部の中の国際協力分野の1科目として現代国際政治経済を理解する上での理論的・応用的視点を養う。	インターネット時代における「メディア」の果たすべき役割とは何か。公正なる国際報道はいかに作られるのか。国際社会における「ジャーナリズム」のありかたを現在・過去・未来の視点から考察し、的確に分析する。	現在進行形の「米中冷戦」をめぐる報道を中心に、すえ、思考力や分析力、問題発見力、方針決定力の向上をめざす。グループディスカッションや小論文の作成を経て、社会人として実戦で通じる情報発信力を得る。	○	○		◎		○
	国際ジャーナリズム論	M-IRE325	300	講義	4	インターネット時代における「メディア」の果たすべき役割とは何か。公正なる国際報道はいかに作られるのか。国際社会における「ジャーナリズム」のありかたを現在・過去・未来の視点から考察し、的確に分析する。	人権概念の変遷と課題についての理解と、国際的な人権保障の枠組みについての理解ならびに日本国の人権保障に関する国際的な責任について理解する。	人権概念とその国際的な保障枠組について理解できるようにする。また日本に課せられた国際社会における責務や国際NGOによる人権活動の意義も理解できるようにする。	○			◎		○
	国際人権論	M-IRE307	300	講義	4	人権概念の変遷と課題についての理解と、国際的な人権保障の枠組みについての理解ならびに日本国の人権保障に関する国際的な責任について理解する。	日本および世界のエネルギーと環境、それに食料・農業に関連した資源全般の問題につき、広く、そしてできるだけ深く勉強し、日本の政策の注目点、世界の主要国の動向を考察する。	エネルギー、環境、食料・農業問題につき、制約条件を確認し、今後のライフスタイルを考え、各国間の利害が異なり、国ごとに意見が出ずるを得ない問題と理解し、自分の意見を述べる。	○	○		◎		○
	国際資源論	M-IRE306	300	講義	4	日本および世界のエネルギーと環境、それに食料・農業に関連した資源全般の問題につき、広く、そしてできるだけ深く勉強し、日本の政策の注目点、世界の主要国の動向を考察する。	国際分業及び各国の価値規範を踏まえ、成熟化した国際社会で多国籍企業を母体に展開される国際経営を、日本企業を中心に理論的、実践的に理解し、説明できる能力を養う。	第2ステージに入り、主たる舞台を新興国に移し展開される国際経営、特に日本企業における国際経営の実践的側面について、理論に基づき理解、説明できる。				◎		○
	国際経営論	M-MNG310	300	講義	4	国際分業及び各国の価値規範を踏まえ、成熟化した国際社会で多国籍企業を母体に展開される国際経営を、日本企業を中心に理論的、実践的に理解し、説明できる能力を養う。	21世紀の国際経済社会の問題、課題を理解し、経済潮流を踏まえ、多文化世界での多国籍企業活動、特に日系多国籍企業の備える特性とその活動を通して、その在り方を考究する。	内向化した時代、人口動態の移行形態に即し国際経済の牽引役を担う新興国を主たる舞台に活動する、経済潮流の主体であり、多大な影響力を持つに至った多国籍企業について理解できるようにする。				◎		○
	多国籍企業論	M-MNG315	300	講義	4	21世紀の国際経済社会の問題、課題を理解し、経済潮流を踏まえ、多文化世界での多国籍企業活動、特に日系多国籍企業の備える特性とその活動を通して、その在り方を考究する。	明治維新から150年を越えたことを念頭に、幕末から冷戦後の今日に至る日本政治の流れを国際環境の裏面と関連付けながら概観する。前半は幕末期から敗戦まで、後半は占領期から現在までの日本の内政および外交を歴史的、政治学的に論じる。	明治維新以降、約150年の日本政治の流れを理解することによって現在の日本政治をみる眼を養うことを目標とする。特に国際環境の変化と日本の政治・権力の相互作用の観点から日本政治が理解できるようにする。	◎					○
	日本政治史	M-POL202	200	講義	4	明治維新から150年を越えたことを念頭に、幕末から冷戦後の今日に至る日本政治の流れを国際環境の裏面と関連付けながら概観する。前半は幕末期から敗戦まで、後半は占領期から現在までの日本の内政および外交を歴史的、政治学的に論じる。	戦前から戦後、そして今日に至るまでの日本外交を、国際環境、国内要因、政策決定者個人レベルから概観する。	日本外交の史的展開を把握し、戦後主要各国と日本との2国間関係を理解し、今日の日本外交の主要課題(領土問題や歴史問題)について考察を深める。			◎			○
	日本外交論	M-POL215	200	講義	4	戦前から戦後、そして今日に至るまでの日本外交を、国際環境、国内要因、政策決定者個人レベルから概観する。	世界的な観点からみた日本という視点から、日本の特徴的といえる事象に重点を置いて、日本の社会や文化について理解を深める。	日本とアジア諸国との違いが生まれたかを自覚できるようにするとともに、(1)他のアジア諸国と違う日本の独自性を見出すことができる。(2)日本社会の特徴を説明することができる。(3)日本の特徴を生かした未来への展望を築くことができるようになる。	◎			○		○
	日本社会文化論	M-POL210	200	講義	4	世界的な観点からみた日本という視点から、日本の特徴的といえる事象に重点を置いて、日本の社会や文化について理解を深める。	アメリカの「社会と文化」を、主に大衆文化を中心に考えて、アメリカのエスタブリッシュメントの中心価値となっている「主流文化」と、若者や女性、マイリティーが担い手の「対抗文化」という二項の「綱引き」の図式を念頭に考察する。	アメリカ文化は「主流文化」と「対抗文化」がせめぎ合い、綱引きを繰り返しているという認識のもと、これら二項を理解し、アメリカの歴史・社会・文化についての基本を踏まえて、アメリカ文化を「消費する」ことについても理解する。	○			◎		○
アメリカ社会文化論	M-ARS204	200	講義	4	アメリカの「社会と文化」を、主に大衆文化を中心に考えて、アメリカのエスタブリッシュメントの中心価値となっている「主流文化」と、若者や女性、マイリティーが担い手の「対抗文化」という二項の「綱引き」の図式を念頭に考察する。	現代ヨーロッパの諸事情について、その歴史的背景に遡って考察し、知識・認識を深める。	現代ヨーロッパの諸事情について、その歴史的背景に遡って考察し、知識・認識を深める。	○			◎		○	
ヨーロッパ社会文化論	M-ARS211	200	講義	4	現代ヨーロッパの諸事情について、その歴史的背景に遡って考察し、知識・認識を深める。	さらなる相互理解が必要なロシアの歴史と文化を多面的に学び、その根拠に流れるロシア的な考え方や世界観を理解すること。	ロシアの社会と文化の独自性と多様性を学び、今のロシアの姿の背後にある豊かな歴史の奥行きを知ること。また、ロシアを通して自分たちを取り巻く諸問題を再考する力を養うこと。	○			◎		○	
ロシア社会文化論	M-ARS212	200	講義	4	さらなる相互理解が必要なロシアの歴史と文化を多面的に学び、その根拠に流れるロシア的な考え方や世界観を理解すること。			○			◎		○	

